

第2回 おもしろすぎる！？こどもの本

～子育ては本におまかせ～

子どもは自分もだて
**子もだて
マナビイ**

【日時】 平成29年7月22日(土) 10時～12時
【場所】 湯田地域交流センター なんでも学習ホール
【講師】 児童書専門店 こどもの広場 代表 横山 眞佐子 氏
【受講生】 大人 29人 (保護者・興味のある方)

実施報告

はじめに

まだ言葉の分からない赤ちゃんに話しかけても意味がないと思いませんか？

どんなに小さな子どもでも、話しかけてあげれば親の本気の対等な気持ちは気配で伝わるものです。

たとえば子どもを預けるときも、何も言わずに離れるのと言葉かけがあるのでは全然違います。



想像力って？

想像力とはつまり

今見えていないものを見えたかのように考えられるチカラ のこと

たとえば…

- ・小説を読んだりお話を聞いたりして言葉で想像する
⇒どんなに現実にはありえないようなことでも、ある程度は頭の中で映像化することができる
作家の想像力+読み手の想像力=どんどん物語は面白くなる！

※想像（映像化）したことが本当かどうか、確かめられないものも…



子育ての畑

赤ちゃんは産まれた瞬間から五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使ってお母さんを感じていますが、特に聴覚（耳）はお腹の中にいた時から使っていると言われています。産まれてすぐでも、お母さんやお父さんの声を知っているから聞くと安心するんです。

- 抱っこされているときは、
- ①お母さんの感覚と匂いに包まれる
 - ②お母さんと目が合う
 - ③お母さんの声が聞こえる
 - ④おっぱいやおしゃぶりを口に含む

五感すべてで大好きなものを感じている

↓
安心する

※授乳のときにスマホなどを気にして赤ちゃんを見ないのはNG！（親との人間関係ができる時期）

●子育てとは、子どもの心の畑作り・土壌づくりです。

子どもと信頼関係を作る・想像力をつける手助け=子どもの心の畑を耕すこと

- ・成長すると畑（心）がどんどん大きくなります。子どものうちに耕してあげましょう。
- ・子どものうちはやり直しがききやすい=試行錯誤して子育てできます。
⇒**子育てに正解はない**ので、いろいろ試してみましょう。
- ・土壌づくりは親の仕事。種は子どもが自分の好きなものを蒔きます。（種を蒔く=読書）
- ・赤ちゃんの時の人間関係は、大人になったとき困難を乗り越える力になります。



絵本の紹介

赤ちゃんに話しかけるのは大切ですが、限度もあります。

子どもに寝てほしいときなどに、子どもが落ち着き、親も『何回読んでもよい』と感じるものが絵本です。

題名：もこもこもこ

文研出版
谷川 俊太郎 作
元永 定正 絵

特徴：

- ・抽象画のような絵
⇒意味はない
- ・感覚が描かれている
- ・生後8か月までが一番楽しめる
- ・子どもの感覚を育てる
(変・きれい・おもしろいなど)

題名：ごぶごぶ ごぼごぼ

福音館書店
駒形 克己 さく

特徴：

- ・ブックスタートでよく配られる最初の1冊
- ・子どもの好きな音・形・色が使われている
- ・すべてのページに子どもの指サイズの穴がある
⇒子どもが自分で気づくまで待とう



題名：ぼんぼんポコポコ

金の星社
長谷川 義史 作絵

特徴：

- ・親子で一緒に会話をしながら遊ぶ本
- ・「ぼんぼんポコポコ」に合わせて赤ちゃんのおなかを叩く真似をする
- ・「たぬきさんがするよ」など声をかけよう

題名：バナナです

文化出版局
川端 誠 作

特徴：

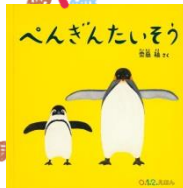
- ・すべてのページが「バナナです。」
- ・どれだけ面白く読めるかが問われる
- ・食べたことのない子にもとても面白い
- ・声掛けをしながら読もう

題名：ぺんぎんたいそう

福音館書店
齋藤 禎 さく

特徴：

- ・「息すってー」とぺんぎんが体操している絵本
- ・1歳半くらいから絵本を見て自分で体を動かして遊ぶようになる
- ・まだできない子はお母さんが動かしてあげよう



題名：カレーライス

福音館書店
小西 英子 さく

特徴：

- ・カレーライスの絵本
- ・「トントン」「コトコト」と作る真似をして遊ぶ
- ・完成したら食べる真似
- ・想像のカレーの匂いを感じる子もいる
- ・小学生も楽しめる



題名：こすずめのぼうけん

福音館書店
ルース・エインズワース 作
堀内 誠一 画・石井 桃子 訳

特徴：

- ・飛ぶ練習中の子すずめが約束を破って冒険する話
- ・ほかの鳥に冷たくされる
- ・母すずめは何も言わずに助けてくれる

メッセージ：

- ・冒険の大変さ、最後は親が助けてくれる(子どもへ)
- ・子どもは冒険するもの(親へ)

題名：ちびゴリラのちびちび

ほるぶ出版
ルース・ボーンスタイン さく
いわた みみ やく

特徴：

- ・赤ちゃんゴリラのちびちびが、自分の体が成長して戸惑う話
- ・体は大人、心は子ども
⇒思春期の子どものお話のようにも見える

メッセージ：

- ・成長しても大人は子どものことが大切(子どもへ)

題名：やんちゃっこの絵本

クレヨンハウス
ステイーナ・ヴィルセン さく
ヘレンハルメ美穂 やく

特徴：

- ・スウェーデンの絵本シリーズ全6冊
- ・続けて読むと、子どもの成長がよく分かる
- ・1～5冊目までは、登場していなくても、実は大人がそばで見守っている

メッセージ：

- ・ある程度のことは、余裕をもって見守ろう(親へ)



読み聞かせで大切なこと



1対1の読み聞かせ

保育園で読んでもらうから家では読まない…はNG!

子どもは自分のためだけに、家族の声で読んでもらいたいと思っています。

どんなに「下手だから…」と思っても、読んであげましょう。



お父さんの読み聞かせ

お父さんの低い声で読み聞かせをしてもらえる子は幸せです。

・父親は自分の子ども時代を思い出しながら子どもと接している＝客観的に考えて対応している

⇒子どもを喜ばせるには…?

体を使ったパフォーマンスをしながら読んでくれる

嫌な感じ、怖いものを音や色で感じ取り味わう

子どもが「ハッ」と息を飲む体験が大切



絵本を介した体験

大人に大切に守ってもらっている子どものころに

1 悲しいこと、 2 苦しいこと、 3 怖いこと の感覚を知り、絵本で体験すること

将来、自立・親離れしやすい



繰り返し読むこと

一度読むと、その人の読み方が決まります。(お母さんの読み方・お父さんの読み方)

・繰り返し何回も読んでもらう

・同じように読んでもらう

読んでいる人のリズムが子どもに伝わる

知っている読み方に安心する

※「大変！」 ⇔ 「でもだいじょうぶ！」 が子どもの成長を前向きに助ける。

横山先生からメッセージ

☆想像力は、成長してから必要不可欠です。想像力を育ててあげましょう。

☆本は初めから終わりまで全部楽しみましょう。見返し(表紙をめくったところ)も見てみましょう。

☆読み聞かせをしながら、子どもに話しかけましょう。言葉が子どもの体に入り、少しずつ覚えていきます。

☆本などをきっかけに、様々なことに挑戦することで子どもは成長します。

☆絵本が子育てのヒントになることもあります。

☆将来のために子どもと信頼関係を築きましょう。

☆見ていられる程度の喧嘩などは、大人が『正しい』『悪い』を決めてしまわず、子ども自身で判断できるように見守ることも大切です。

講座の様子

実際に絵本を読みながら、どの時期の子どもが好きなのか、読み聞かせで大切なことをお話していただきました。また、先生の体験談も交え、子育てで重要なことも教えていただきました。

時折笑いが起こりながらも、参加者の方は熱心にメモを取りながら真剣に先生のお話を聞き、終了後も先生に質問したり、実際に絵本を手にとって読んだりされていました。

アンケートにもたくさんの意見がよせられました。



受講生の方からの

ご意見・ご感想

一部
ご紹介

☆ちょっと切なくなり、でもなんだか心があたたかくなり、とってもいい時間になりました。
私自身本は大好きですが、もっともっと子どもと一緒に本を読もうと思います。

☆大変面白かったです。仕事しながらもこのような勉強できる機会は、今後の自分にとってプラスになります。忙しくても、子どもとの関わり方として本を増やしていこうと思います。

☆本の奥深さを改めて感じました。やっぱり本っていい！
もう子どもも大きくなってきたので、1人で読めるとしてしまいましたが、まだまだ読んでやりたいと思いました。

☆3か月の子どもがいます。早く本にふれさせたいと思いました。

☆とても引き込まれた2時間で、勉強になりました。
本を介していろいろなことを伝えられることが分かりました。子どもにたくさん本を読んであげたくなりました！

☆どんな本を選んだらいいのか分からなかったので、とても参考になりました。
今日からまた新たな気持ちで本を読んでみようと思います。

☆先生のことは存じ上げていたので、話を聞いて良かったです。
とても楽しくて、子どもに対して今日から改めて本を読んだり声掛けを工夫してみたいと思います。

☆絵本は子どものためだけではなく、大人が子育てをするヒントもあることを知りました。

☆絵本との関わり方、子どもとの関わり方、その両方を教わってよかったです。
子育てに活かしていきます。



御協力ありがとうございました